

平成24年度 魅力ある学校づくり推進事業実績報告

1 テーマ及び検討した課題

「小中連携、学校、地域家庭と連携した学力向上～基礎学力の定着～」

① 校内研究（算数科）に取り組む。

「基礎的・基本的な知識をもとにして、自分なりの解決方法を考え表現しようとする子どもの育成」～相互作用を促し、よく考え分かる「学び合い活動」の研究を通して～という研究テーマで本年度、小城市学力向上研究会の教育研究大会での発表をした。算数科の授業に「学び合い活動」を入れた授業に取り組んで3年経つ。上学年部、下学年部、特別支援部の3つのグループに分かれ、全学級がグループ授業研を公開するか、教育研究大会（11月21日）で公開するかにし、指導案検討会も全て全職員で行った。共通理解を図り、研究の方向性を一つにまとめていった成果が当日の授業でのいい評価につながったのではないかと思う。

② 家庭との連携、小中連携、小小連携

保護者と連携して家庭学習習慣の定着をめざす生活アンケートの取り組みを年に2回、6月と12月に行っている。

これは小城中学校区学力向上委員会の中で小中連携の取り組みでもあり、推進委員が各学校の調査を行い、結果を分析している。そこから出てきた成果と課題をそれぞれの学校に持ち帰り、次年度の実践に繋げている。

③ 地域との連携「岩松寺子屋」

地域の教育力を活用し、隔月一回の「土曜講座」を実施している。岩松校区の青少年健全育成会は岩松校区のすばらしい自然や歴史、文化を子どもたちに学んでほしいという積極的な思いを持たれ、年間6回の土曜講座を「岩松寺子屋」として開催している。

昨年度末に過去2年間の「岩松寺子屋」の集大成として「岩松読本」（井手義信先生執筆・監修）ができ、全児童に配布した。今年度末には「岩松読本」を使って第1回目の岩松検定を行った。5・6年生78名が検定に挑戦し、うち54名が合格した。満点合格者も16名いた。

また地域を知る活動として「手漉き体験」を行った。小城の手漉き和紙の歴史は古く、6年生が大和町に伝わる名尾和紙づくりを体験することで郷土の産業の歴史にも関心をもたせることができ、名尾和紙の卒業証書への愛着も増した。

4年生以上には江里山地区で行われている「案山子フェスティバル」に案山子を制作して参加することにより、江里山の棚田について理解し、美しい景観を守っていこうとする意識が高まった。

④ 小中連携を通しての長期休業中の補習授業

小城中学校の生徒が3日間の算数教室にのべ19名が指導に来てくれた。小学生と中学生の異学年の学び合いができたのではないかと思う。

⑤ 朝のスキルタイムの、全職員での指導体制

級外の職員も全員学級に入ること、算数と国語とスピーチのスキルの継続が確実にできた。

2 テーマの成果指標及び結果

成 果 指 標	① 算数科におけるCRTの平均得点率を全国得点率に近づける。 または、それ以上にする。 ② 算数科CRTにおける全観点評定「1」ランクの児童の割合
---------	---------------------------------------------------------------------------------

成果指標の結果	(現状) 平成23年度 ⇒ (目標) 平成24年度
	現6年 算数65.2 ⇒ 66.3 (1.1ポイント↑)
	現5年 算数71.9 ⇒ 73.0 (1.1ポイント↑)
	現4年 算数75.1 ⇒ 77.2 (2.1ポイント↑)
現3年 算数78.3 ⇒ 80.6 (2.3ポイント↑)	
(目標) 期待得点 ⇒ (結果) 平成24年度 (全国得点率)	
現6年 算数66.3 ⇒ 74.1 (67.3) ↑	
現5年 73.0 ⇒ 74.4 (67.0) ↑	
現4年 77.2 ⇒ 71.9 (69.5) ↑	
現3年 80.6 ⇒ 73.5 (77.2) ↓	
(現状) 平成23年度 ⇒ (目標)	
現6年 12人 (26%) ⇒ 6人	
現5年 4人 (7%) ⇒ 2人	
現4年 4人 (11%) ⇒ 1人	
(目標) 平成23年度 ⇒ (結果)	
現6年 6人 (26%) ⇒ 3人 (9%) 全国出現率14%	
現5年 2人 (7%) ⇒ 5人 (12%) 全国出現率18%	
現4年 1人 (11%) ⇒ 4人 (11%) 全国出現率13%	
(結果の考察)	
① 今年度の4月実施の全国・県の学習状況調査の結果が5・6年共に向上していたが、年度末実施のCRTの結果も2年、3年においてはほぼ同等で1、4、5、6年は全国比100を上回る成果を上げることができた。	
② 「1」ランクの出現率で見るとどの学年も全国出現率よりは少なく、昨年度と比較しても全体的には減るか同等とみなすことができ、底辺児童のレベルアップを図ることができたと考える。2年の図形や3年の「量と測定」の領域で少し落ち込みが見られるが、それらの落ち込みの要因の解明をし、個々の児童の学力の分析とそれに応じた指導のあり方を探り工夫していくことが必要である。	

3 事業期間

平成24年6月 ～ 平成25年3月

4 実施実績

(1) 協議・検討のための会議等の開催実績

主な構成等	人員数	開催予定回数
学力向上検討委員会	8人	6月10日
学力向上検討委員会	8人	11月4日
学力向上検討委員会	8人	3月22日
学校職員・育友会(保護者)・地域活動団体(公民館、区長会、青少健、学校評議員)教育事務所		

(2) 実施した調査・研究活動

- ・ CRTを3学期に実施し、学習効果を評価した。
- ・ 全教師による公開授業と授業研究会及び結果の分析調査を行った。
- ・ 土曜講座(「岩松寺子屋」)を継続した。
- ・ 保護者、地域代表者の意識調査(学校評価)を行った。

(3) その他、当事業において実施した事項

<ul style="list-style-type: none">・校内研究のまとめ・中学校との学力向上のための連携（サマースクール）・育友会と連携した家庭教育充実のための教育講演会・岩松検定の実施（岩松寺子屋での学習内容の定着）

5 教育事務所、佐賀大学、教育センター等の活用実績

実施時期 (月 日)	各種支援要請の内容・講師等の協力要請の実績
6月10日	・第1回学力向上委員会 佐城教育事務所 紫村直美指導主事
6月16日	・第1回岩松寺子屋 地元区長
6月15日	・全校研研究授業及び研究会 佐賀県教育センター 遠藤浩幸指導主事
7月30日	・校内研修「学習状況調査の分析とその活用について」教育センター古賀泰伸先生
8月 1日	・算数教室（補充学習）4～6年 小城中学生
8月 2日	・算数教室（補充学習）4～6年 小城中学生
8月 3日	・算数教室（補充学習）4～6年 小城中学生
9月 8日	・第2・3回岩松寺子屋 佐賀獵友会小城支部長、八天神社神主、小城市教育委員会
10月27日	・第4回岩松寺子屋 地元区長
11月 4日	・第2回学力向上委員会 佐城教育事務所 紫村直美指導主事
11月 6日	・全校研研究授業及び研究会 佐賀県教育センター 遠藤浩幸指導主事・
11月 7日	・全校研研究授業及び研究会 佐賀県教育センター 田中美由紀研修員
11月21日	・小城市教育研究大会 教育センター 遠藤先生、田中先生 小城市教委
12月22日	・第5回岩松寺子屋 地元老人会
1月25日	・和紙に関する知識と紙漉体験（6年生）名尾和紙工房
2月16日	・第6回岩松寺子屋 八天神社神主 獵友会支部長 地元区長
2月20日	・教育講演会「心を通わず読み語り」講師：副田ひろみさん
3月22日	・第3回学力向上委員会 東部教育事務所 紫村直美指導主事

6 主な検討結果及び課題解決に有効と考えられる具体策について

- ①CRTの分析による個々への対応した指導を行う。
- ②習熟度に応じたプリントを作成し指導を行う。
- ③地域の支援をさらに強固なものにしなが、家庭の教育力を上げること。家庭教育の大切さを啓発しながら家庭での基本的な生活習慣の徹底を図っていくことが最重要なことと考える。来年度は、生活アンケートの調査結果を保護者に定期的に公開し、意識の向上を図っていく。
- ④「学び合い活動」を取り入れた授業をさらに深化させ、他の教科にも広げていく。
- ⑤ICT利活用教育の推進。電子黒板を効果的に取り入れ、意欲を喚起する授業に取り組む。
- ⑥地域に学ぶ体験活動を単発に終わらせることなく、継続的に探求的に学習していく総合的な学習の時間にするために年間計画の見直しを図り、充実させる。
- ⑦地域の支館で行っている土曜講座「岩松寺子屋」の充実。平成25年度で4年目を迎える。岩松のすごさを地域の方を講師に高学年対象に学習していくものであるが、今年度から始めた「岩松検定」を継続し、地域理解をさらに進め、学んだことの定着を図るようにする。